

2017 年度

学校評価
結果報告書

金剛学園小学校

2017年度 金剛学園小学校 学校評価

1. 目指す学校像

本校は韓国系国際学校であり、在日韓国人、日本人、韓国からのニューカマーなどの児童が在籍している。それぞれ生まれ育った環境や国籍は違うが、韓国と日本の文化を学び、お互いの文化や背景の違いを尊重しながら国際人意識を深め、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目指す。

- ・豊かな国際感覚の育成
- ・温かい心、人間性の育成
- ・確かな学力の育成

2. 中期的目標

1.国際社会に適応できる実力を育てる。

- ① 英語の会話能力を向上させる。また英語検定力試験対策を行い、より高い資格を習得できるようにする。
- ② 国語の会話能力を向上させる。また韓国語能力試験対策を行い、より高い資格を習得できるようにする。
- ③ ICT 機器を各授業で活用することによって ICT 教育を通して習熟度を上げる。

2.望ましい人間性を育む。

- ① 礼儀正しく、規則を守り、基本的な生活習慣を持つ子どもを育てる。
- ② 人権教育の推進を図り、相手の立場を理解できる思いやりのある豊かな人間性を育む。

3.基礎学力の定着と学力向上を目指す。

- ① 基礎・基本となる学力の定着を図る。
- ② 分かる授業を行い、学習内容を確実に習得出来るように教材研究をする。

4. 児童募集に力を入れる。

- ① 本校入学希望者の人数を増やす。
- ② 本校の広報活動に力を入れる。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

<p>自己評価アンケートの結果と分析 〔2018年2月21日（水）実施〕 ～達成状況及び取り組み状況～</p>	<p>学校評価委員会からの意 【学校関係者評価委員会報告】</p>
<p>○児童のアンケート結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施：2018年2月21日(月) ・対象児童（4年：18名 5年：18名 6年：23名） ・回答：59名/59名 回答率100% ・「学校に行くのが楽しい」の項目に、Cが32%、Dが8%とC・Dが半数近く占めているのが気になるが、「友達と仲良くしている」の項目にAが54%、Bが32%、「先生は、わかりやすく教えてくれる」の項目にAが27%、Bが51%と学校の中で最も多くかかわる人との関係が良いと考えられるので、「学校に行くのが楽しい」の項目に対して素直に答えられなかったと考えるが、再調査をし、楽しくない原因を追究する必要がある。 ・「宿題や準備物などを忘れない」の項目にCが25%、Dが10%となっている。自分で自覚しながらできていない児童がいるので対策をたて、実施しなければならない。 ・「学校でいろいろなルールを、守る大切さを学び、守っている」の項目は、Cが32%である。ルールに関しては日頃から注意をしているが、この結果からルールを守らせるための方法も変えていく必要がある。 ・「あいさつを進んでしている」の項目にAが29%、Bが46%と大半ができていう結果ではあるが、教師から見てできていない場面もよく見るので、意識を変えていかなければならない。 ・「十分なすいみんをとっている」の項目にCが34%、Dが14%と十分な睡眠がとれていない児童がたくさんいる。通学時間が長く、起床時間が早いことも理由の一つと思われるが、睡眠時間の短い児童には保護者への連絡が必要である。 ・毎日朝ご飯を食べることは100%でなければならないので、食べない児童には必ず保護者へ連絡する。 ・学校行事はほとんどの児童が楽しいと思っている。 ・クラブ活動、係や当番の仕事、委員会活動は積極的にしている児童が多い。 ・「安全に通学している」の項目に、Cが8%いるので、調査し対策をたてる必要がある。 ・「地震や火災が起こった場合、どうしたらよいかを学んでいる。」の項目にCが8%である。学校の立地条件を考慮し、すべてがA、Bになるように今後も防災教育に力を入れる。「学校からの案内文をお家の人に渡している」の項目にCが14%、Dが3%いるので、ホームページや一斉メール等で知らせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：2018年3月17日(金) ・場所：本校 会議室 ・出席者：学校関係者評価委員 6名 尹裕淑校長 PTA 会長（趙誠洙） PTA 副会長(宮本順美) 鄭徳浩中高教頭 金股芳中高教頭補佐 玄勝己小学校教頭 ・保護者のアンケート回答の評価水準は高く、満足していることがうかがえた。 ・児童たちの授業の理解度を知るため、授業の最初に前時の内容の小テストを行うようにする。 ・児童に勉強を教えるだけでなく、子どもたちが自ら学習するように、やる気を持たせる指導が必要である。 ・広報活動をしっかり行い、児童募集に学校、保護者が力を集結して取り組む必要がある。 <p style="text-align: center;">学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムに授業の様子や行事活動をフェイスブック、ホームページを通し発信しているのは高く評価する。また学級通信、案内文などを通して学校の情報を公開し透明性を維持している。

○保護者のアンケート結果から

- ・実施：2018年2月20日(火)～2月26日(月)
- ・回答：69世帯/78世帯 回答率89%
- ・「学校は、他校にない独自の教育活動を行っている」の項目にAが55%、Bが38%という結果は、27項目、28項目の結果から、韓国の文化・語学学習の取り組みが保護者に理解されていると予想される。
- ・「学校は、教育活動や子どもの様子を、学級通信・ホームページ等を通して伝えている」の項目にAが58%、Bが38%という結果から、保護者にアピールできているとわかるが、まだ改善の余地があると考えます。
- ・「お子さんは、授業がわかりやすいと言っている」の項目でCが23%、Dが6%という結果から、研究授業や教材研究に励み、分かりやすい授業が100%できるように努力したい。
- ・「教師は、きめ細やかな指導や支援をしている」の項目にCが15%、Dが7%という結果から、指導の内容をキチンと保護者に連絡する必要があると考えられる。また、「学校は、学校生活で問題が生じたときに、迅速・的確に対応している」の項目でCが12%、Dが10%という結果から、迅速・的確に保護者との連絡をし、学校での児童の様子を知らせる必要があると考えます。
- ・「自分の子どもは基本的な生活習慣が身についている」「お子さんは、連絡帳などで宿題や準備物を確認している」「お子さんは、きまりや約束ごとを守っている」この3つの項目の結果から、保護者と学校が協力しC、Dが減少するようにしたい。
- ・「学校は、子どもたちが活躍する場がたくさんある」の項目にAが38%、Bが51%、「学校は、クラブ活動に積極的に取り組んでいる」の項目にAが48%、Bが39%と良い結果が出ているが、本校のスローガンのように、すべての児童が主人公になるようにさらに熱心に取り組みたい。
- ・「学校は、いじめや不登校のない学級づくりに取り組んでいる」の項目にCが15%、Dが3%であるが、C、Dが0%になるように、取り組んでいきたい。
- ・「学校は、行事や授業参観・懇談会などを通して、お子さんの学校生活の様子がわかるような機会を設けている」の項目でAが56%、Bが44%と良い結果ではあるが、さらに良い結果になるように努力したい。
- ・「2018年度より中高は新しい制服に変わるが、小学校も新しい制服に変えたほうがよい」の項目ではCが33%、Dが41%と反対意見が多かったので小学校の制服の変更は行わないことにする。
- ・「漢字検定を受検しているが、継続して受検を望む(3～6年)」「韓国語能力試験を受検しているが、継続して受検を望む(4～6年)」「英語検定を受検しているが、継続して受検を望む(4～6年)」の3つの項目でAが60%を超え、Bが20%を超える結果から、2018年度も3つの検定試験を受検する予定である。

教育内容

- ・英語に特化した学校にしてほしい。
- ・小、中一貫して英検に取り組んでほしい。今年の結果には満足している。
- ・英検、韓国語検定試験は来年も続けて行ってほしいが、漢検に関しては希望者のみの受験が望ましい。児童たちの負担が大きい。
- ・基本的な生活習慣の定着は学校の指導だけでは難しい。家庭でも生活習慣に関心を持ち、両面から変えていくことが大切だ。

〈来年度に学校で取り組むべき課題〉

- ・今年度同様、つまずきを的確に把握してきめ細やかな指導を行い、学力が向上するよう指導する。
- ・韓国語、英語で「会話ができる児童」を育てる。
- ・自分の意見や考えをきちんと伝えられるような授業の取り組みをする。
- ・教材研究をしっかり行い、楽しくわかりやすい授業を目指す。
- ・児童の友だち関係のトラブルなどを未然に防ぐため、授業時間（専科の時間も含む）休み時間の児童の行動を把握する。
- ・避難訓練の回数を増やし、災害時にスムーズに行動出来るように津波・地震対策を強化する。
- ・誰に対しても、大きな声で元気よくあいさつができるように指導する。
- ・学校でのルールを守れない児童は約束事を決め、守れるように指導する。守れない場合は、罰則を厳しくし保護者にもその旨を報告する。また、保護者との連絡は密にとり、家庭で指導をしてもらうなど協力を要請する。

〈家庭に対して望むこと〉

- ・宿題や準備物を忘れないように連絡帳や時間割をチェックする。
- ・早寝・早起きを基本に、生活リズムを整え、日常生活において挨拶教育をする。
- ・学校のことを家庭内で話す機会を増やす。
- ・家庭学習の習慣化を図る。
- ・学校内での様子を把握する。

○教職員 自己評価

(1) 学校運営

- ・おおむね良好で、建学の精神や教育目標については理解が十分でないと考えられる。そのため教職員の研修が必要と考えられる。
- ・昨年に引き続き、教職員連携は教職員間の相互理解が十分でないと考えられる。教職員の連携を高め、情報交換をもっとする必要がある。
- ・情報公開においては、積極的に授業や行事の様子をフェイスブックやホームページを通しリアルタイムに発信し、素早い情報提供ができています。
- ・危機管理については、通学車添乗及びシートベルトの着用指導をしっかり行っている。下校指導（集団下校2回）はしっかり並んで静かにするよう指導する。避難訓練や緊急時の担当及び役割分担が明確になり迅速に対応出来るようにマニュアルを熟知する努力が必要である。

(2) 教育内容

- ・おおむね良好である。
- ・いろんな国籍の児童がいる中で、韓国以外のことももっと積極的に理解する必要がある。
- ・本校独自の特色の一つである民族的な行事を通してアイデンティティ教育の取り組みはされている。

・海辺の学校なので津波を想定した避難訓練をしっかりと実施してほしい。

・2017年度から年度末に教職員研修を実施しているが、より多様な内容で研修を行ってほしい。

・多文化教育、人権教育もいろいろな方法で行ってほしい。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的な目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
国際社会に適應できる実力を育てる	1・英語の会話能力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 1・英語の授業を全学年3時間確保する。そのうち1時間を英検の授業とする。すべての授業をレベル別の分班授業とする。 ・4～6年は英語検定5級以上の合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・1～3年は歌やゲーム・カードを中心に興味を持って楽しく参加できるように授業を展開する。 ・各学年を2班編成にし、個人の能力に合わせた指導をする。 ・4～6年の英語の授業は1/3時間を英語検定対策中心の授業展開にする。能力にあわせて3班に分け授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話力に差があり、能力別に授業を編成することで満足度の高い授業が展開できた。 ・英語検定合の格率が高かった。 ・能力別に3班分けの授業を実施した効果があった。 ・英語検定試験 48人中26人合格(54.2%) ・授業で電子黒板やタブレットを使う等、多様な教材を活用した結果、授業を楽しく受けている児童が増え、会話能力が向上する効果がみられた。
	2・韓国語の会話能力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 2・能力に応じた3班編成で授業を実施。 ・日常生活は韓国語で会話が出来る力を養う。 ・韓国語能力試験の対策を行いより高い資格を習得できるようにする。 ・学校内では出来るだけ韓国語で話すように指導する。 ・タブレットを使う授業を増やす。 ・1～2年の算数は韓国語イマージョン教育を導入する。 ・韓国に触れる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 2・初級/中級/本国班と自分の能力に合った授業を受けることで会話能力向上を目指すことに努める。 ・夏休みに補習授業を行い、領域別・級別に細かい指導を行う。 ・9月に授業で能力試験の過去問題の取組みを行う。 ・4～6年全児童参加の校内ウリマルイヤギ大会(韓国語弁論大会)を実施する。 ・日常に必要な韓国語の習得に努める。(数、時間、天気、簡単な文章など) ・韓国の大学生によるプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語能力試験 受験者37中29名(78%) 1級15名、2級10名 4級1名、5級1名 6級2名が合格。 ・校内ウリマルイヤギ大会に4～6年生が積極的に臨む事が出来た。韓国語の弁論大会を通し、一人一人が実力を発揮できた。 ・聞く力をつけることができた。 ・韓国語しか通じない場面が潜在能力を引き出した。

			プログラムを展開して韓国語を使う場面を設定する。	
	3. 情報教育を推進する。	3・コンピューターの授業でエクセルやワードを活用できる能力を養う。 ・教職員のパソコンスキルの向上を図る。 ・電子黒板やタブレットを有効に使えるように研究し、教師間で情報を共有する。	3・コンピューターを使うことでいろいろな知識が広がり、また活用することで生活が便利になることを教える。 ・教師の研修実施「電子黒板・タブレット」研修 「ICT 機器活用セミナー」参加	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使ってポスター・簡単な表・グラフなどが作れるようになった。 ・パワーポイントを活用し学習発表することができた。 ・児童が電子黒板に書き込む作業を多く取り入れることができた。
2 望 ま し い 人 間 性 を 育 む	1. 礼儀正しく、規則を守り基本的な生活習慣を持つ子どもを育てる。	1・すすんで正しい姿勢で元気よく挨拶ができるように指導する。 ・早寝、早起き運動を推進する。 ・登下校のマナーを守ることや安全について指導する。 ・身の回りの整理整頓を指導する。 ・時間を守るように指導する。	1・全校朝礼で挨拶指導を行う。 ・全校児童会役員と週番生が毎朝登校時に声かけをすることであいさつが出来る児童を増やす。 ・定期的に早寝・早起きの状況を確認する。 ・集団下校にホームまで教師が引率し、公共マナー指導を行う。 ・ICT資料(映像やパワーポイント)を利用して具体的に指導する。 ・自分の持ち物をきちんと整理整頓できるように各教室で写真掲示指導を行う。 ・授業開始時には着席しているように指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶できる児童とできない児童の差が大きい。継続して指導を行わなければならない。 ・高学年になるほど生活習慣が崩れてくる傾向が見られるので、家庭と密に連絡を取ることが必要である。 ・教師がいる場合はマナーを守れるが、児童だけだと守れない場合が多い。根気よく指導する必要がある。 ・身辺整理が苦手な児童には整理しやすい方法を提示して支援する必要がある。 ・自ら時間を守る習慣をきちんと持てるよう指導する必要がある。
	2. 人権教育の推進を図る。	2・いろいろな活動を縦割り班で行い、思いやりや協調性を養う。・異学年交流を行い、リーダー育成を図る。 ・人権講演会や人権学習を通して、相手の立場	2・縦割り活動が円滑に行えるように縦割り班でリクレーションを行う。 ・縦割り活動の場面を多く設定する。 校外学習、林間学校、旧正月、水泳訓練、	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は児童中心に活動できるように配慮した。 ・縦割り活動を通して上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生にあこがれる関係を築くことができた。来年度もこの活動を推進す

		<p>を理解する豊かな人間性を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーによる、いじめ対策や仲間作りの授業を計画する。 	<p>金剛まつり、体験学習、社会見学、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流を通してリーダーとしての資質を育てる。 ・違いを認め自他ともに大切にすることを持つように指導する。 ・SNSの研修、いじめ研修、ワークショップ、エゴグラム実施及び分析、ネパール支援募金活動などを実施する。 ・自分を知り、相手の立場を理解できる豊かな人間性を育てるよういろいろな機会を作る。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場面でリーダーの役割をすることで自信が持てた児童が増えた。 ・命の大切さを知ることによって自尊感情を持つことができ、他人も大切にすることをすることができた。 ・自分を知ることによって相手を理解する心を持つことができた。
<p>3 基礎学力の定着と学力向上を目指す</p>	<p>1. 基礎・基本となる学力の定着を図る。</p>	<p>1・算数は教師2人体制のTTで授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～6年対象に週1回、放課後に補習(算数・漢字)を行い、学習に自信を持たせ学習意欲を高める。 ・6年は算数の習熟度の差があるので、分班授業を行う。 ・その他必要であれば、韓国語、日本語の補習を行う。 ・5～6年を対象に夏休み集中補習授業(韓国語・国語・算数・英語)を実施し、一人ひとりの到達度にあった指導を行う。 ・漢字指導に力を入れる。 ・反復学習の徹底 	<p>1・つまづいている児童をすぐに発見し、きめ細やかな指導を行うことで習熟度を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後補習は、習熟度の低い児童の縦割りクラスを設け実施する。 ・転編入してきた児童の語学力向上のためのクラスを設け、きめ細やかな指導を行う。 ・夏休み集中補習授業は、全教師指導体制をとり、少人数クラスで個人の到達度にあった授業を実施し、学力向上を目指す。 ・3～6年対象に漢字能力検定を受検して漢字能力を高める ・計算ドリルやワーク、漢字練習の課題を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人体制で授業を行う事で授業内容を理解しているか確認することができた。 ・習熟度の差がある学年は、分班授業にしたため理解力が向上した。 ・基礎学力をつける事で学習に自信をもつ事ができた。 ・校内テストを年3回実施して児童の学力を把握し、到達度に達していない児童には個別指導を行うことができた。 ・漢字能力検定試験合格者72名中66名(合格率91.2%) ・課題を細かくチェックできたので、一人ひとりの苦しい課題を発見・克服出来た。

<p>2. 分かる授業を行い、学習内容を確実に習得できるように教材研究をする。</p>	<p>2. 各教科の研修に参加して指導力アップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数は各学年間の単元内容を共有する。 ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を導入する。 ・電子黒板、タブレットを活用して、楽しく分かりやすい授業を行う。 	<p>2. 各教師が研究した教材を全教師で共有することで教師の指導力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度の低い児童が、どの学年でつまづいているのかを発見し、指導する。 ・電子黒板やタブレットを導入、活用することで学習意欲を高める。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストや単語テストの結果をその場で確認する。 2. 復習問題をタブレットに送信して授業の再確認をする。 →レベルに合わせた復習が可能。 3. 漢字の書き順確認→全員で確認する。 4. 図形や地図、教科書を拡大する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で効果的に使えるよう教材研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にいろいろな研修に参加する姿勢がみられた。 ・積み重ねができていないと次の段階にいけないので、つまづきを発見することが重要だ。 ・電子黒板やタブレットを活用することで学習の幅が広がり、児童一人ひとりが積極的に授業に参加する姿が見られるようになった。 ・地図や図形等の板書の時間が短縮され、授業時間を有効に使えるようになった。 ・学習発表をするにあたり、いろいろな情報を検索して必要な資料を得ることができた。 ・授業のまとめとしてタブレットを利用するためには単元に合った内容の教材を作成して挿入しなくてはいけない。 ・全教師で協議する。
---	---	--	---